

# 活動レポート

## 北海道スタンダード研究委員会

文責：北海道スタンダード研究委員会広報担当部長 米川 康

### 第3回ワークショップを開催しました。

北海道スタンダード研究委員会では、第3回ワークショップを開催しました。開催概要を以下に報告します。

#### ■第7回勉強会の概要

日 時：平成26年10月17日(金)

場 所：TKP ガーデンシティ札幌駅前

参 加：19名(会員：10名、会友：1名、非会員：8名)

講 演：「人口減少時代における北海道の地域戦略」

講 師：五十嵐智嘉子 様

(一社)北海道総合研究調査会 理事長

W S：「元気な北海道に向けて」

講 師：五十嵐智嘉子 様

(一社)北海道総合研究調査会 理事長

#### ■講 演

五十嵐講師は、平成26年9月より内閣官房まち・ひと・しごと創生本部参事官(非常勤)として多くの時間を霞が関での活躍に注力している方です。今回は、(一社)北海道総合研究調査会の「地方人口減少白書」の内容に加え、「まち・ひと・しごと創生」に向けた「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の

策定について、お話しが出来る範囲でご講演をいただきました。

#### 〈講演要旨〉

##### 1. 北海道の人口動向分析と将来推計

人口動向分析によると、北海道は、1960年以降はずっと社会増減数はマイナスであったものの、平均余命の伸びを背景として自然増減数がプラスであったため目立たなかった。しかし、平成15(2003)年以降は、「社会増減数」マイナスのうえに「自然増減数」のマイナス時代に突入したため、合せて急激な人口減少局面に入りつつある。その中身は、20～24歳の大学・短大等を卒業する年代の特に東京圏への転出が多く、60～65歳の退職層が微増している状況である。なお、25～29歳の女性の人口割合が少ないものの、札幌市ではこの年代の女性が男性と比較して約1割多い状況にある。

北海道の中心都市のダム機能を分析すると、北海道の拠点都市(札幌市、旭川市、釧路市、帯広市、北見市など)の人口のダム機能を分析すると、転出人口数と転入人口数の大小から4つのタイプに分けられる。

札幌市：地方からの転入も他地域への転出もともに多い。大幅な転入超過(入多+出多=入多)。

帯広市：地方からの転入も他地域への転出もともに少ない。若干の転入超過(入少+出少=入少)。

旭川市と北見市は、地方からの転入もあるが、転出が多い。転出超過(入中+出多=出中)。

釧路市は、地方からの転入が少ないうえに、転出が多い。大幅な転出超過(入少+出多=出多)。

効果的な人口減少抑制対策は、社会増減数への対策であるとのこと。このことから、特に20～24歳の大学・短大等を卒業する年代の若い女性向けの



写真1 五十嵐講師による講演

職場を考える必要があると感じた。

## 2. 「まち・ひと・しごと創生」に向けた「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」

この目的は、人口減少に歯止めをかけ、東京圏への過度の人口集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保することにある。将来人口の客観的な推計や分析・予測を行い、結婚・出産・地方居住に関する住民の意識や希望等の把握・分析を行うことにより、「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」を策定する(2014～2015年度)。

### ■ WS(第3回ワークショップ)

五十嵐講師による3回目のワークショップである。第1回は「足元を見つめなおす作業」、第2回は「目標・将来像を考える作業」であった。今回は「到達すべき北海道の価値(レビュー)」を考えた。



写真2 白熱したワークショップ

#### 〈ワークショップ概要〉

3組に分かれて、「元気な北海道に向けて」価値(レビュー)した。それぞれ、第2回ワークショップでとりまとめられた結果を基にしてブレインストーミングを行い、とりまとめた。

1組は、優秀な地方高専などの地域に密着した教育のさらなる発展が重要であり、ここから意識づけをして再建から独立国へと志向する意気込みが必要であるとまとめた。

2組は、観光について考え、四季や気候を体感できる強みを活かし、一泊単価3万円・年間480万人の集客を目指すべく観光予算を増やすべきで、そのためには50年志向の北海道経営学が必要である



写真3 第1組のワークショップ風景



写真4 全体発表の様子

とまとめた。

3組は、目標は「北海道は〇〇大国ですね」と呼ばれることである。1次産業+2次産業+3次産業のマーケティング・販売・流通に力をつけ地域ごとに集客力をつける必要があるとまとめた。

今後は、自分は何が出来るか、するべきかを考えるアクションプランの作成。その次にプライオリティ評価(重要性-緊急性の軸)を行う予定である。

### ■おわりに

今回のワークショップも大変盛り上がりました。回を重ねるごとに内容が集約しつつあります。第4回以降がととも楽しみです。

今後も北海道スタンダード研究委員会は「元気な北海道に向けて」を考えるワークショップを開催していく予定です。皆さんのワークショップへのご参加をお願いいたすとともに、今後とも引き続きご支援をよろしくお願いいたします。